

祈りの
課題

- ◆被災された方々の生活の必要が満たされ、今日を生きていく力が与えられ、希望ある明日が主によって拓かれますように。
- ◆宮城チームの教会・伝道所の歩みと信仰が支えられ、被災者支援の働きが共に福音に与る歩みとなりますように。

チューリップをうえています！



◆山台では、市街のけやき並木に電球が取り付けられる「光のベージュメント」が例年通り開催されました。保管していた電球55万個すべてが津波で流されましたが、多くの支援を得ての開催です。暗闇の中で輝く光は、震災の痛みの中に生きる私たちにクリスマススの希望を証してくれました。

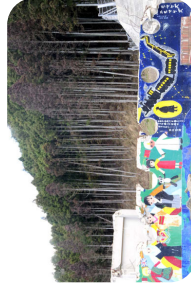
12月に「チーム・キタヨン」メンバーとして石巻市立大川小学校を訪問し、校長先生からお話をうかがった後、被災した校舎を見してきました。大川小学校は、2階の屋根まで津波の跡が残っています。体育館は土台近い部分だけが残り、校舎と体育館をつなぐ廊下は、鉄筋造りの柱が無残に折れて、コンクリートの屋根が崩れ落ちてしまっています。

敷地の外れに長い壁面があり、子どもたちの描いた壁面が残っていました。明るい色彩の民族衣装を着た世界中の大人と子どもが手をなでている絵があります。港と大きな鉄橋、海と船を描いた絵もあります。何年にもわたって描き継がれたものでしょう。人影の絶えた敷地で、壁面の周りに子どもたちの笑いきさめく声が聞こえるようでした。

「平成十三年卒業制作」作品は、宮沢賢治の全身像と銀河鉄道の絵が描かれています。「世界が全体に幸福にならないうちは、個人の幸福はありえない」という文が添えられています。子どもたちの心に響く言葉だったのでしょうか。「雨」「雨」「雨」(風)「モモマケ」という詩は、津波での「雨」「風」の部分の壁が崩れて欠けていました。

大川小の校舎を見おろせるところに三叉路があり、小さな花壇がつくられています。スイセン、サツキ、パンジー、クリスマスローズなどの花が植えられています。PTAの方や地域の方々が毎日のように手入れに来ているそうです。

仙台教会からも募金を贈ったチューリップの球根はすでに植えられており「チューリップをうえています！」という立て札が立てられていました。「スイセンの花言葉 希望 あなたの元に帰ります」の立て札も、「今は姿は見えないけど、もうじき芽を出すから随分荒らさないでね!」と訴えているようにです。種を蒔き、球根を植え、芽生えを待ち、水をかけ、花を咲かせてという喜びは、計り知れないほど心を癒し、力づけてくれることでした。チューリップの咲きそろう日が楽しみです。(仙台教会：一瀬千恵子)



宮城子一△の教会・伝道所の最近の活動

仙台教会の支援活動窓口である「チーム・キタヨシ」が中心となって、津波の被害を受けた南三陸の戸倉小
学校や石巻の小学校に対して教材の提供などの学習支援を行っている。また、仙台市内の仮設住宅「あすと
長町」との関わりも始まった。4月からは、宮城チームの牡鹿半島支援活動のコーディネートを担う。

亘理町の宮前仮設住宅の支援を月に2回のペースで行なっている。12月には宮前仮設住宅でクリスマス会を行い、一緒にクリスマスソングを歌ったり、全国の教会の支援を受けて準備したクリスマスプレゼントを届けたりした。西南学院の学生ボランティアも受け入れ、仮設住宅の子どものためのケアにも力を入れる。

石巻市の牡鹿半島（鮎川/茨浜など）の支援に力を注ぎ、女性会でペン立てを製作し届けするなど、宮
イディアを出し合って書き添う活動を行う。浜で不要になった支援衣類を回収する働きも行った。また、宮
城学院の被災学生のためのサポート活動も継続して行なっており、国外の支援者との関わり合いも多い。

学習会「原発後を生きる私たち」を実施し、地域の方々と共に放射能課題に向き合う活動を行っている。また、全国の方々に現地の様子を伝える活動を大切に、牧師が全国に出かけて報告会を行っている。仙台地区の超教派の被災支援活動「東北ヘルプ」にも深く関わり、多方面に活動している。

宿泊支援として伝道所を開放。連盟関係をはじめ様々なボランティアのサポートをする動きを担っている。今日まで 1500 人を越えるボランティアを迎えた。12 月には石巻市渡波地区などにクリスマスプレゼントを届ける活動も行った。被災された方々との個人的なつながりを大切にしながら丁寧にサポートをしている。

薬剤師である教会員の指導のもと、手作りのハンドクリーム（メッセージ付）を180個準備し、牡鹿半島の給分分給や炊立、互理の宮前仮設住宅の支援に用いられた。冬の寒さが厳しい仮設住宅で、このハンドクリームが大変喜ばれた。情報共有しながら、「できることを自分たちで見つける」活動を継続。

酒田は日本海側のため津波被害があった地域からは遠いが、12月に行われた宮前仮設住宅クリスマス会に藤井牧師が参加し、現場で感じたことを酒田の子どもたちに伝えていく大切な働きをしている。また、連合のメーリングリストの管理を担当し、情報共有の働きも担っている。



クリスマスプレゼントを届けました

12/10(土)に富城チームで石巻市牡鹿半島を訪問しました。仙台地区だけでなく他地区からも参加いただき、合計15名での訪問です。今回の訪問では、クリスマスプレゼントをお渡しすることができました。連盟対策本部に寄せられたカンパや宣教団の協力によって、お菓子入りクリスマスブーツを全世界分用意することができました！皆様のお祈りとご支援に心から感謝いたします。お菓子入りクリスマスブーツを抱えて、子どもたちもニコニコでして、「必要な物」をお持ちするもの大切ですが、「楽しさ」をお持ちするのも、笑顔が生まれてですね。

また、西南学院大学、中高からも温かいメッセージが
のクリスマスカードが全世帯分送られてきて、この方々も
れもお渡しすることができました。感謝です！浜の方でも
「いつも覚えていてくれてありがたねえ」と喜んでおら
れました。震災から10ヶ月が経ちましたが、まだ深い悲
しみと涙は拭いきれず、これから生活に不安があります
。そんな只中で、クリスマス希望の光が輝きますよう
に」と心から祈りました。（仙台北教会・金丸真）



1

『理地支援委員会ニュースレター』第3号 2012年1月発行 ◆編集：日本バプテスマ連関災害対策本部現地支援委員会 ◆発行人：加藤誠

◆今号に掲載していない被災県内の教会・伝道所の様子も、次号以降、順次お知らせしていきます。